

中部千島温禰古丹島植物日誌

札幌市 吉野博吉

温禰古丹島は館脇操氏著「千島概誌」によれば、千島列島春牟古丹島の北北東の春牟古丹海峡約8マイルのところにある。南南西より北北東延びその長さ約42.5km、北部全長の半ば、巾約7.4kmであるが、南部は直径16.5kmの円形状をしている。地形は山岳蟠屈しその内に顕著な二つの高峯がある。南部にあるのを黒石山と云い、その高さは1328mの円錐状の火山にして周囲に600m～

900mの外輪山をめぐらし、中に幽仙湖というひとつの湖がある。(海面上約381m)。北部には根茂山(標高1,019m)の火山があり、その北方に蓬萊湖がある。海岸の多くは巉岩峭立し、わずかに砂浜が交じっている。東岸に黒石湾、北西岸に根茂湾がある。共に湾形開闊好錨地である。(多少現代文に直した。)(写真・図-1)



温根古丹島(をんねこたん) 千島の天候は概して快晴の日が少い。雨と霧と。殊にその辺の霧は濃密である。航海者を悩ませるのもこの霧である。太平洋の南から本州の東岸を洗って北流する黒潮と、北の方ベーリングの寒海から南下する寒流とが、根室から北千島への航海中も始り列島の姿を見ずに過ぎて了うことは稀ではない。写真は霧に閉ざされた温根古丹島である。盛夏尚海岸近く残雪を見る。冷然たる海水の色である。気温は盛夏日中でも華氏70度以上には昇ることは殆どない。最低40度、勿論火気を必要とする。(伊藤秀五郎)

私は1945年(昭和19年)6月に北方警備のため兵隊としてこの島に上陸した。島に立って私の眺めた景観は、まさに前述のとおりで、北方には黒石山が幽仙湖と云う湖水の中央に聳え立っている。湖は二重式火山湖で火口壁の外輪山は、400m~500mの直角的急断崖の島内では最も美しい眺めで、他の島では見られない光景である。南方には根茂山があって南北に相対している。(表-2)

今回の調査は、学術的な植物の調査が目的ではなく、大隊本部より命令で食用に出来る野草を調べて乾燥貯蔵して冬に備える準備するためであった。

私はその頃、高山植物の知識を多少持っていたが、一般の山野草については全くと云ってもいいほどに知識がなく、内心困ったと思ったが、心臓強くこれもお国のためと引受けた次第である。

本土から遠く離れた中部千島列島、温禰古丹島の植物については資料がないので、早速北海道大学農学部附属植物園の石田文三郎、原秀雄、両先生にお願いして至急参考書を送っていただき十分に参考になったことは、いまでも深く感謝している。

調査報告は毎日書いて大隊本部に提出していたので、文体が日誌風になっているが、そのまま記載することにした。

1945年(昭和19年)6月23日、淡菜岬と大泊附近の海岸の植生

大泊附近より淡菜岬の方が植物の種類も多く植生は豊富である。

海岸の岸壁に豊富に群生している植物は、

アカバナベンケイソウ、チシマキンバイ、シコタンハコベ、チシマニンジン、チシマコハマギク等である。岩上や岩の隙間の至るところに生育しているのは、アカバナベンケイソウとチシマコハマギクが最も豊富である。この附近で目についた植物は、イワキキョウ、エゾコザクラ、トモシリソウ、キヨシソウ、チシマタンポポ、マイヅルソウ、ツマトリソウ、矮性灌木類では、エゾツツジ、ガンコウランが見られる。

草地になっている斜面では、ミヤマハタザオ、キバナノコマノツメ、チシマイチゴ、チシマアザミ、ミヤマスマミレ、が群生している。とくにキヨシソウが真盛りで岩が白くなるほどに群生しているのは見事で強く印象に残っている。

同年6月24日、淡菜岬と大川流域附近の植生

昨日調査した地域より淡菜岬を北上して見ることにする。昨日目についた植物以外のものとしては、イワヒゲ、ゴゼンタチバナ、コケモモ、エゾコザクラ、キバナノコマノツメ、エゾツツジがある。特に驚いたのはエゾツツジの直径1m位の大株が見事に群生していることであった。

大川に入り上流に向かって進むと、所々に中州が出来ている。中州には、チシマクモマグサ、ミヤマハタザオ、ジンヨウスイバ、ダイモンジソウ、ミヤマアカバナ、ミヤマガラシがある。珍しい植物としては、シロバナミヤマアカバナが所々に見られる。また、チシマクモマグサの大株(直径約80cm)が所々に見られて、北海道ではとても見る

ことの出来ない光景であった。

帰路、淡菜川の上流に出て見たが、このあたりの植生には、あまり変化は見られなかった。シロバナミヤマアカバナは、まだ本邦については未報知と聞いているが未確認である。

同年 6 月 26 日、幽仙湖畔の岸壁と外輪山の植生

待望の幽仙湖にはじめて行くことが出来た。早朝本部を出発して大川を遡行して行く。400m地点では水が無くなり、所々にある残雪を見ながら外輪山の上部に出る。外輪山の斜面にもかなりの残雪が残っている。先ず最初に目に入ったのは、キバナシャクナゲの大群落、エゾキンバイソウ、チシマフウロ、エゾコザクラ、イワヒゲ、エゾツツジ、キバナノコマノツメ等で見事なお花畑を形成している。そのほかには、ヒメクワガタ、ツマトリソウ、マイヅルソウ、ハイヤナギ、イワウメ、コメバツガザクラ、チシマクモマグサ、イワブクロ、クロマメノキ、オトギリソウ sp、チシマニンジン、ミヤマダイコンソウ等が見られる。特にキバナシャクナゲの大株が絨緞の紋様のようには開花している姿は、北海道では比較の出来ない見事さである。その他珍しい植物では、ミヤマダイコンソウの八重咲とシロバナイワブクロの群生である。傾斜面下の湿生草原には、チングルマ、ミネハリイ、エゾコザクラ、ヒオウギアヤメ、モウセンゴケ等が群生している。すこし高いところには、アオノツガザクラ、ヒメクワガタ、エゾコザクラ、ミヤマダイコンソウ、アキノ

キリンソウ、チシマニンジン等が見えた。

本日のコースは幽仙湖の下見としてきたので時間もなく、外輪山の途中から引返すことにした。次の機会には一周して十分に調査したいと思う。

同年 6 月 28 日、大泊岬、濁川方面の海岸岩壁の植生

海岸岩壁の植物は共通種が多く、ミヤマダイコンソウ、チシマキンバイ、イワヒゲ、エゾイヌナヅナ、ミヤマハタザオ、エゾコザクラ、ツマトリソウ、トモシリソウ、チシマニンジン、ハマエンドウ、チシマコマギク等が多く、崩壊地にはイワブクロの大株が見事に群生している。その中には白花種もたくさん見ることが出来て、かなりの大株である。

帰路の途中に、ガンコウランのヒースになった大きな群落が見えた。

所々にヒメシャクナゲ、ムシトリスミレ、ムカゴトラノオ、クロマメノキ、チングルマが混生している。

本日のコースで注目したい植物を見ると、チシマワレモコウ、チシマイチゴ、ミツバオウレン、ハクサンチドリ、ウヅラバハクサンチドリ、ヨツバシオガマ、エゾツツジ、ハマナス、シロバナヒメクワガタ、シコタンハコベ、ベニバナベンケイソウ、ヒメクワガタ、ミヤマアカバナ、ハマエンドウ、センダイハギ、キヨシソウ、タカネスミレ、チシマセンブリ、カラマツソウ sp である。シコタンハコベも北海道から見ると大形で別名マルバシコタンハコベと云われている説もある。

同年7月5日、淡菜岬の植生

久しぶりに晴れる。(約1週間ほど霧のため調査中止)

調査のため岬の台地に行く。気温も暖かくなってきたので、色とりどりの花が咲きだして美しいお花畑を形成している。最も目についた植物は、エゾコザクラの群落、アカバナベンケイソウ、ベニバナチシマイチゴ。白花ではキヨシソウ、シコタンハコベ、イワヒゲ、黄花では、チシマキンバイ、ミヤマガラシ、タカネスミレ、タンポポsp、その他は、チシマフウロ、ヒオウギアヤメ、岩場には、チシマコハマギクが大きな群落をつくっている。

本日のコースではじめて見た植物は、トリカブト2種類、エゾハナワラビ、チシマクルマユリ、タカネスミレ、イワキキョウの人輪系等である。

同年7月9日、黒石川上流と赤石山の植生

早朝から晴れて待望の黒石川を遡上する。所々の中州の植生は、淡菜川大川とも共通している。チシマクモマグサ、ミヤマアカバナ、ジンヨウスイバ、ダイモンジソウ、ミヤマハタザオ等が豊富に群生している。途中の岸壁には、キヨシソウ、エゾイヌナヅナ、ミヤマダイコンソウ、ヒメクワガタ、エゾコザクラ等が目につく。壁下のところでミズバショウを発見したが、この調査では最後までこの地域以外では見られなかった。大きな雪渓を登りきると高層湿原地帯となる。このあたりは植生も豊富で、ヒメシャクナゲ、シユムシワタスゲ、モウセン

ゴケ、ミネハリイ、ムシトリスミレ、ミネヅオウ、エゾコザクラ、ミヤマダイコンソウ、チシマトウチソウ、クロマメノキ等が見られる。

赤石山の尾根に出た頂上に近い草地は、いままで調査した地域とは多少変わっており、ミヤマハンノキ、ハイマツが見えて、群生の切れ目には、チングルマ、ヒメシャクナゲ、キバナシャクナゲ、ミヤマリンドウ、エゾコザクラが見える。頂上附近の礫地には、ミヤマキンバイ、イワウメ、チシマセンブリ、ミヤマリンドウ、チシマアマナ、ミネズオウ、ジムカデ、チシマツガザクラ、ウラシマツツジ、チシマセキショウ、キバナシオガマ、タカオカソウ、チシマキキョウ、エゾノハクサンイチゲ等が豊富に見える。

本日のコースではじめて見た植物は、キバナシオガマ、タカオカソウ、チシマツガザクラ、チシマアマナ、ミヤマキンバイであった。

同年7月16日、糸川の流域と圓頂山附近の植生

早朝に出発して糸川（オホーツク海側）にはじめて行く。糸川近くになると、植生も太平洋側とは、かなりの変化が見られる。太平洋側ではあまり見られなかった、エゾキンバイソウ、ハクサンチドリ、ウヅラバハクサンチドリ、シロバナハクサンチドリが豊富に見られる。糸川近くの台地では、ガンコウランのヒースが見られ、コメバツガザクラ、チシマツガザクラ、ジムカデ、ウラシマツツジ、クロマメノキ、ミヤマリ

ンドウ、チシマセンブリ等があった。その中に混じってスズムシソウの一種を見出す。灌木類のミヤマハンノキ、ハイマツは太平洋側から見てかなり矮性化している。

糸川岬に出て食事をとり、その後その附近を調べると、珍しくアライトヒナゲシを見出した。そのほかには、チシマクモマグサ、ジンヨウスイバ、ミヤマハタザオ、ダイモンジソウ、ミヤマアカバナ、チシマルリソウ、タカオカソウを見た。海岸に出て圓頂山に向かう。途中海岸の草原では、ウサギギク、シュムシクワガタ、エゾコザクラ、プリムラ sp、チシマルリソウで、特に目についたものは、シロバナノチシマルリソウが混生していた。

斜面を登り切って尾根に出ると、北海道では珍草の部類に入るキバナアツモリソウがかなりの数を見ることが出来た。

附近の草地には、エゾツツジ、ハクサンイチゲ、チシマルリソウ、エゾキンバイソウ、ミヤマダイコンソウ、エゾノヨツバシオガマがあり、登って礫地に出ると、チシマキキョウ、ミヤマキンバイ、ムカゴトラノオ、ムシトリスミレ、チシマセンブリ、タカネスミレ、チシマセキショウ、チシマニンジンがあり、頂上直下に出て岩場を見ると、ヒメクモマグサ(ヒメシコタンソウ)、ウラジロキンバイ、チシマハナシノブ、チシマアサヅキ、ウルップソウ、オニク、ノコギリソウ sp、コウノソウ、ムシトリスミレを見た。ウルップソウは群落をつくっているが、裸地以外ではあまり見られない。群落の中でシロバナウルップソウを見出したが、ウルップソウより少し小形で、夕張

岳のユウバリソウと形態がよく似ている。群落のスケールの大きさに驚かされる。

帰路は糸川に出て海岸台地の崩壊地では、チシマクモマグサの群落があり、その中に、シロバナウルップソウが単独で群生しているのは注目に値するものと思った。

本日のコースで注目したい植物をあげると、キバナノアツモリソウ、シロバナウルップソウ、キバナシオガマ、アイザワソウ、チシマハナシノブ、プリムラ sp、シロバナハクサンチドリ、ウツラバハクサンチドリ、ヨツバシオガマ、ヒメクモマグサ、ウラジロキンバイ、チシマハナシノブ、シュムシクワガタ、アライトヒナゲシ等がある。

同年7月23日 幽仙湖壁と黒石山の外輪山の高地の植生

午前6時に部隊本部を出発して淡菜川を遡上する。途中の上流の流域には、チシマクモマグサ、エゾコザクラ、ミヤマダイコンソウ、ジンヨウスイバ、ミヤマハタザオ等が美しく咲き乱れ群落を形成している。

500m地点までくると湖沢となる。登りきって草原に入ると、ハクサンイチゲ、エゾキンバイソウ、ミヤマダイコンソウ、エゾコザクラ、チシマニンジンが花ざかりで美しい。エゾツツジの大株も所々に点在している。

午前9時すぎに外輪山の尾根に出る。11時に584m地点に着く。早い昼食をすませて附近を観察する。チシマルリソウ、イワブクロ、ミヤマキンバイ、ウツラバハクサンチドリがあり、特にイワブクロの大株には驚いた。直径が1m以上もあって白雲山の

頂上まで群落をつくって続いている。群落
がきれた頃から植生に変化があり、キバナ
シオガマ、タカネトンボ、チシマルリソウ、
シロバナチシマルリソウ、シコタンソウ、
シュムシュクワガタ、ムシトリスミレ、チ
シマアマナ、シロバナイワブクロが目につ
く。840m高地には午後2時に着き、高輪山
には3時30分、湖眺山には5時着く。強行
軍で沢の口についたのが8時30分であった。

本日のコースは上陸以来の難コースで部
隊に着いたのは翌日の午前2時すぎであ
った。部隊では、あまりにも帰りが遅いので

搜索隊を出発させる直前であった。

温禰古丹島では、やはりこの外輪山が植
物の種類としても豊富で珍しいものも可
なりあり、群落のスケールも同島内では最高
だと思っている。

本日のコースで注目すべき植物と珍しい
植物を記入すると、ヒメクワガタ、シロバ
ナヒメクワガタ、シロバナチシマセンブリ、
シロバナエゾコザクラ、シロバナチシマキ
キョウ、八重咲ミヤマダイコンソウ、シロ
バナイワブクロ、シロバナチシマルリソウ、
タテヤマキンバイであった。(図-2)

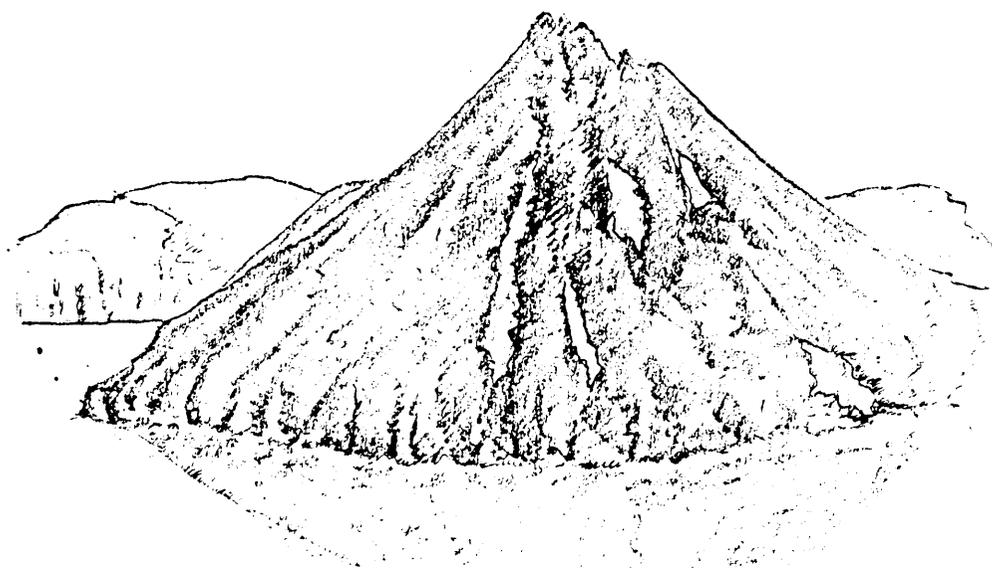


図-2

幽仙湖・火口壁より黒石岳を望む (S.19.7.26.H.Y)

同年 8 月 10 日 温禰古丹島

部隊に移動命令がくだる。いよいよ温禰古丹島との別れが近くなった。美しかったお花島も季節が過ぎて秋の気配がする。草原にはまだ、チシマフウロ、チシマアザミ、チシマセンブリ、チシマクルマユリ、オニシモツケ等の花が目につく。ガンコウラン、コケモモ、クロミノウグイスカグラの実が色づき食べ頃となってきたが、残念ながら採取は出来なかった。(図-3)

温禰古丹島の植物日誌は本日で終わるが、上陸以来約 3 週間にわたり調査をしたが、まだまだ不十分であるのが残念である。機会があればこの北の楽園に再度訪れたい想いを抱きながらこの稿を終わる。

温禰古丹島における注目すべき植物とその分布。採取地及び所見を(図-4)により記述する。

参考文献

- ・ 館脇操著「千島概誌」北海道庁編
- ・ " 「北方の植物」
- ・ " 「北方植物の旅」
- ・ " 「植物誌(北方編)」
- ・ 伊藤誠哉著「千島植物研究総説」
- ・ 北海道庁編「北千島調査報文」
- ・ 総合北方文化研究会「千島学術調査研究隊」
- ・ 多羅尾忠郎著「千島探検実紀」
- ・ 北方軍管区司令部「千島列島植物図鑑」
- ・ 山本三生編「日本地理大系第10巻」北海道・樺太篇

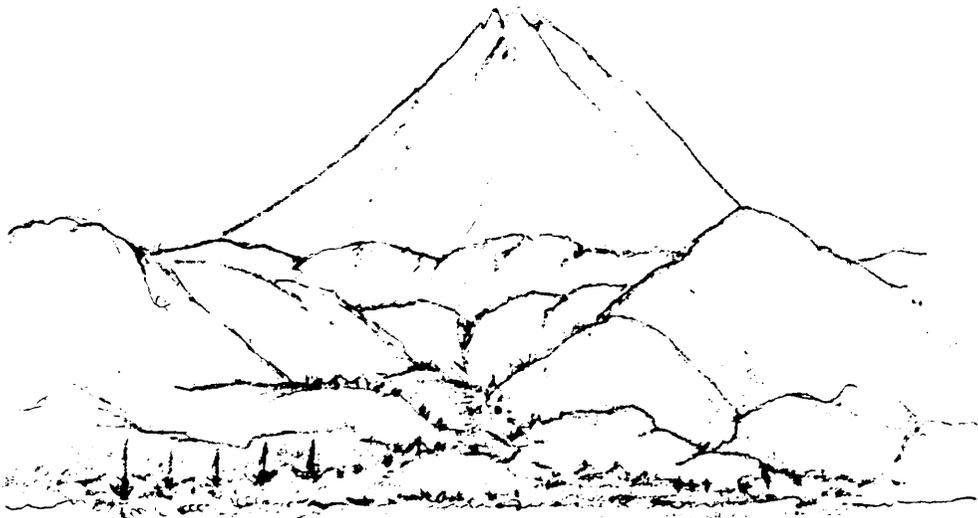


図-3

大泊より見る黒石岳(S.19.8.20.H.Y)

温稱古丹島の注目すべき植物の分布と採集地一覧表

植 物 名	分 布 と 採 集 地 及 び 所 見
チシマクモマグサ	全島いたるところで見られる。各河の中州に群生しているのは、北海道では見られない光景で、とくに幽仙湖の火口壁の外輪山が最も豊富であった。
シロバナノアカバナ (写真-C)	ミヤマアカバナの一変種と思われる。最初は大川の中州で見たが、分布域も狭く稀産種である。
ムシトリスミレ	数は多くないが所々に分布している。
イワウメ	最初は幽仙湖火口壁ではじめて見たが、海岸壁では見なかった。
コメバツガザクラ	イワウメと同じく幽仙湖の火口壁で見たが、海岸壁には見なかった。
イワブクロ	全島で見ることが出来た。山の礫地や海岸の崩壊地に大きな群落をつくっている。
ウズラバクサンチドリ	全島の海岸の草地のいたるところに生育していて分布は広い。
ミヤマキンバイ	最初は赤岩山連峰で発見し、その後圓頂山の裸地で見たが、海岸台地や岩壁では見なかった。
タテヤマキンバイ	隔離分布で注目すべき植物で、本島では赤岩川上流の一部で発見したのみで他の地域では見なかった。北千島の幌筵島で採集した。
シロバナチシマルリソウ	幽仙湖の外輪山で見たのみで、他の地域で見なかった。この島では稀産種である。
タカオカソウ (写真-A)	ムラサキ科の植物でエゾリソウより小形で草丈8cmほどの稀産種である。本島では黒石川流域と糸川の台地で見ただのみである。
シュムシュクワガタ	比較的分布は広く、山の草地や海岸上の台地に見られる。
シロバナエゾヒメクワガタ	幽仙湖の外輪山840m高地で見たが、他の地域では見なかった。稀産種である。
エゾハナワラビ	淡菜岬の台地上で見たが、他の地域では見なかった。
キバナシオガマ	分布区域が狭く糸川の海岸台地で見ただのみである。
チシマハナシノブ	圓頂山の裸地で見たが、他の地域では見なかった。
ウラジロキンバイ	分布区域は狭く圓頂山の礫地で見たが、他の地域では見なかった。
アライトモギ (写真-E)	根茂付近で見たが海岸台地では見なかった。
アライトヒナゲシ	オホーツク海側の糸川の河口の中州で見たが、他の地域では見なかった。幌筵島では全島いたるところに自生している。
八重咲ミヤマダイコンソウ	幽仙湖の外輪山840m高地で見たが、他の地域では見なかった。
キバナアツモリソウ	圓頂山の直下の草地で見たが、数的にすくなく、全島分布区域は狭い。
ウツラバクサンチドリ	全島の海岸の台地草原のいたるところに自生している。
チシマアマナ	圓頂山の裸地で見たが、他の地域では見なかった。

植 物 名	分 布 と 採 集 地 及 び 所 見
ヒメクモマグサ エゾキンバイソウ	圓頂山の山頂の岩壁と岩上で見た。他の地域では見なかった。 オホーツク側の糸川方面の草地には群落をつくり、お花畑を形成しているが、太平洋側にはあまり見られないのが不思議である。
コウノソウ (写真-B)	oxytropis属の稀産種で圓頂山と根茂附近の台上で見たのみで、ほかでは見なかった。幌筵島でも見ることが出来た。
アイザワソウ (写真-D)	oxytropis属の稀産種でエゾオヤマノエンドウによく似ている。根茂附近の岩壁で見た。他の地域では見なかった。
シロバナウルップソウ	圓頂山の山頂の裸地で見た。他の地域では見なかった。
シロバナチシマセンブリ	幽仙湖の外輪山の一部で見たが、他の地域では見なかった。
シロバナエゾコザクラ	全島の所々に分布しているが、採集地域は淡菜川上流、黒石川上流、幽仙湖の外輪山の3ヶ所である。
シロバナイワブクロ	幽仙湖外輪山の840m附近に多く、かなりの大株が群生している。

